

2. 喜連・瓜破・長吉地区の遺跡

今回の担当竹村は昭和 20 年 3 月から、長吉地区出戸町の住んでいる。当時は府下中河内郡長吉村大字出戸であった。昭和 30 年 4 月に大阪市の編入になり、東住吉区长吉出戸町となった。

昭和 25 年時点に購入した 5 万分の 1 地形図を 2 倍の拡大したコピーを巻末に添付した。この地図から解るように平野南部に位置するこれら 3 地区は、当時は全くの農村であった。出戸から平野へは 2~3km の距離がある。交通手段は徒歩または自転車であった。つまり都市設備は皆無といってよかった。

昭和 40 年代後半から都市開発が急速に進み、住宅団地、中央環状線・近畿道の高速道路、地下鉄谷町線、下水道等の大規模建設工事が実施され、これに伴って遺跡調査も大掛かりに行われた。これまでの成果から、この地区は 3 万年前に旧石器時代に始まり、縄文、弥生、古墳の古代から、中世、近世に至るまで各時代の遺跡が重層的に存在することが判明した。

これまでに発掘された遺跡は次の通りである。

- ・ 喜連東遺跡
- ・ 瓜破遺跡
- ・ 長原遺跡

これらの遺跡の発掘調査による出土品の例を示すと以下のようである。

- ・ ナウマンゾウの足跡化石（長原遺跡 約 3 万年前）
- ・ 大阪最古の石器（長原遺跡 旧石器時代 約 2 万数千年前）
- ・ 縄文土器（長原遺跡 縄文晩期 BC2300 頃）
- ・ 竪穴住居（長原遺跡 弥生時代後期）
- ・ 埴輪/船形、家形、盾形、短甲形など（長原高廻り 1・2 号古墳 5 世紀前半）
- ・ 飛鳥~奈良時代建物群 掘立柱建物 2 1 棟
- ・ 室町時代廟堂（喜連東遺跡）

出所： 大阪市文化財情報誌「葦火」3号、8号、9号、13号、14号、21号、24号、32号、37号による。